

# 令和3年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表1 令和3年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率—1 (定点)

		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町	(94)	1.1	(2.1)
	加西市中野町 ※	(94)	3.2	-
	西脇市黒田庄町	(94)	1.1	(0.0)
	多可町加美区	(94)	2.1	-
	丹波市山南町 ※	(94)	1.1	-
	加古川市志方町	(83)	2.4	(4.3)
西部地域	神河町	(94)	3.2	(2.1)
	宍粟市山崎町	(94)	1.1	(1.1)
	佐用町	(94)	0.0	(1.1)
	上郡町	(94)	5.3	(2.1)
		平均	2.1	(1.8)

供試虫: 令和3年6月1日、2日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試。

検定方法: 簡易エライザ法。

※ これまで調査地点であった加東市社町、滝野町での小麦栽培の減少に伴い、代替地点として加西市中野町、丹波市山南町を選定。

表2 令和3年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率—2(その他の地点)

		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
西部地域	姫路市香寺町	(94)	2.1	(3.2)
	たつの市新宮町	(94)	2.1	(1.1)

供試虫: 令和3年6月1日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試した。

検定方法: 簡易エライザ法。

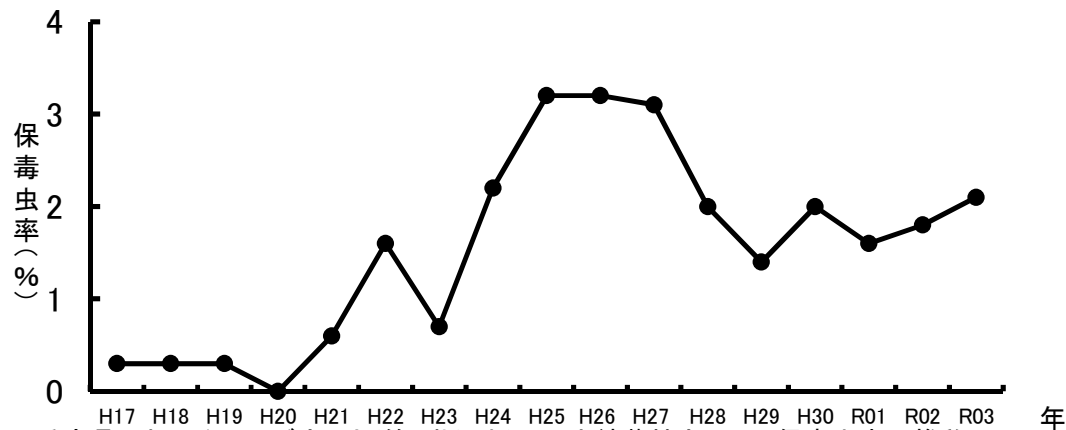


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平成21年以降急増し、平成28年に低下したものの、ここ数年は2%程度で推移している(図)。

今年の保毒虫率は、この時期の要防除水準である5%以上を示した地点が1地点で見られた。昨年に比べて保毒虫率は4地点で低くなり1地点で同等であったが、4地点で高くなった(表1、2)。保毒虫が広域で確認されており、地域によっては保毒虫率が高くなっているため、今後も本病の発生に注意が必要である。

水稲生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病とヒメトビウンカの新規保毒を助長させるため、できる限り早く抜き取り、感染拡大を防止する。詳しくは、病害虫防除所webサイト「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびにYouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照すること。

・「イネ縞葉枯病防除マニュアル」

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf>)

・YouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」

(<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U>)